

富松城跡を活かすまちづくり委員会

代表者	善見壽男
所在地	〒661-0003 尼崎市富松町2丁目23-1
設立年月日	平成14年1月26日
URL	http://tomatsujyou.com/

【設立趣旨】

尼崎市北部の富松地域は、昭和30年代半ば頃から高度経済成長とともに都市化が進んできました。同時に子どもたちにとっての教育環境が損なわれてきたことから、平成元年より地域に暮らす新旧住民が相互に助け合い交流し、子どもの故郷づくりのため、ともに地域を愛する心を醸成するため、また、地域に現存する中世の遺跡である「富松城跡」(写真1)をまちづくりに活かすため、平成14(2002)年1月26日、富松城跡を活かすまちづくり委員会を設立しました。



(写真1) 富松城跡

【沿革】

平成14年1月26日、富松城跡を活かすまちづくり委員会を設立。同年3月30日、まちづくりシンポジウム「富松城の攻防・その時、京を動かした～富松城跡はどれほど貴重か～」を開催。同年4月26日、「中世の富松城跡を守ろう！」の看板を富松城跡南に設置。同年6月8日、まちづくりシンポジウム「戦国の城・富松城の実像に迫る」を開催。同年7月21日、「富松一夜城」体験学習。同年11月28日、「見直そう尼崎の宝・中世の富松城展」を開催。平成15年6月24日、バーチャル博物館「富松城歴史博物館」ホームページを開設。同年9月28日、まちづくりシンポジウム「バーチャル富松城歴史博物館から見てきたもの」を開催。平成17年4月1日、市バス「富松城跡」停の誕生を祝う会を実施。同年7月2日、富松城跡の保存を願う大七夕まつり開催。同年9月17日、富松城跡講座「発掘調査からみた富松城跡」を開催。同年11月20日、中世の城跡が残る富松史跡ウォーク開催。平成18年2月9日、フォーラム「歴史とまちづくり－富松城跡からの発信」尼崎市と共催。同年8月25日、富松城の土塁の高さ調べ実施。平成19年6月15日、ガイドブック『もっと知りたい中世の富松城跡と富松』刊行。同年8月26日、富松城跡の立木調査を実施。平成20年8月23日、富松城跡の草木調査を実施。

【活動目的】

活動の中心となっている富松城跡は、「細川両家記」などの文献史料と内容が符合し、西撰(摂津国西部)の中世史を語る上にも、また、平野部の中世城館跡の土塁や堀の特徴をよく残した貴重な文化遺産です。その「富松城跡」の歴史や価値、文化を学習のベースにし、その貴重さを広く地域社会に啓発して、「歴史的な町の風景」を子どもたちに伝えることを目的にしています。

【活動内容】

主な活動として、地域に潜む有形無形の文化財を発見し、そこから学び、後世に伝え残していくための取り組みを行っています。

●「見直そう尼崎の宝・中世の富松城展」を開催

平成14(2002)年11月28日には富松城跡の歴史的価値をPRしようと「見直そう尼崎の宝・中世の富松城展」を開催しました(写

真2)。富松城遺跡の発掘出土品69点を一堂に公開しました。また発掘調査地点位置図(パネル)1点、発掘調査説明(B1パネル)6点もあわせて展示。692人が参加しました。



(写真2) 展示会

●「富松城歴史博物館」ホームページを開設

より多くの方に富松城跡の大切さを知っていただくため、神戸大学「地域連携センター」の市澤哲准教授をはじめ、多くの団体・関係機関などの協力を得ながら、平成15年6月にバーチャル博物館「富松城歴史博物館」ホームページ(<http://tomatsujyou.com/>)を開設しました。

●平成17(2005)年4月、市バス停を「富松城跡」に名称変更 富松城主や少年剣士がバスに記念乗車する祝賀行事がありました

(写真3)。そのほか、平成19(2007)年6月にガイドブック『もっと知りたい中世の富松城跡と富松』刊行、毎月1回の堀の清掃作業(写真4)、学習会・シンポジウム開催、史跡ウォーク探訪、啓発「大絵馬」の作成など多岐にわたる活動を行っています。



(写真3) バス停-富松城跡を祝うイベント

●他団体との連携

* 神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター

当会の主催する歴史講座やフォーラムなど、学術的な視点で研究者の講演やアドバイザーを務めてもらっています。バーチャル「富松城歴史博物館」ではホームページの一部作成の協力を受け、ガイドブック『もっと知りたい中世の富松城跡と富松』において編集・執筆の協力を依頼しました。



(写真4) 堀清掃

* 尼崎武庫ライオンズクラブ

富松城跡のガイドブック『もっと知りたい中世の富松城跡と富松』作成に協賛を受けました。また、堀の清掃活動など「まちづくり」の取り組みに協働しています。

【活動上の課題と今後の展望】

「まちづくり」に活かそうとしている富松城跡の土地1,300平方メートルは、現在、相続税の物納物件です。今後、財務省により競売に掛けられる恐れがあり、文化財的価値が消失してしまう状況にあります。このことは、市民の団体のレベルでどう解決できるか、大きな問題点といえます。